

環境教育人を訪ねて 第6回 五十嵐 美樹さん

サイエンスエンターテイナー / 東京都市大学人間科学部特任准教授

踊って、笑って、伝われ！ 身近な不思議のおもしろさ

文：垂水恵美子 (JEEF)

軽快な音楽と明るい声に、道行く人が足を止める。視線の先には実験道具が並んだテーブルと、ステージの中心でヒップホップを踊りながら生クリームの入ったボトルを振る女性がいる。サイエンスエンターテイナーの五十嵐美樹さんだ。科学実験教室やサイエンスショーを全国各地で開催している。

ダンスしながらバッテリーを作る、家にある道具で風力発電装置を作る。次々起こる不思議な現象に、子どもたちの目が引き付けられていく。しかし、すぐに答えは教えない。「近くの保護者や友達と考えてみて！」五十嵐さんの声掛けに、ショーがワークショップ的な空間に様変わりした。環境省浮体式洋上風力発電広報アンバサダーも務め、身近なものでできる浮体式洋上風力発電装置を子どもたちと一緒に作り、風力発電の仕組みや浮く仕組みを伝えていくワークショップを

通して、その仕組みや社会との繋がりについて発信している。きっかけは中学の授業で、白光のスペクトルが虹の原理であることと知り、科学が身近な自然と結びついていくことに興味を持った。同時に感じたのが、「もっと早くこの面白さを知りたかった」という思い。興味のない人に届くために、取り入れたのがエンターテインメントだ。さらに、そこに学びもなければいけない。ヒントを求めて参加したGEMS講座で、プログラム構成やファシリテーションを鍛えた。そして自分の活動がどれだけ影響を与えられているか、研究と両輪で行うことで客観的に自分を

見るよう努めている。話題は海外にも届き、ドイツで開催された国際的な科学コミュニケーションイベント(※)で、日本人で初めて世界の20人に選出された。ショーに参加した親子のやりとりが印象に残っている。「あなたが意外とこういうのが好きだったのね」と親に言われた子どもは、自分の”好き”が認められて嬉しうだった。環境や性別に関係なく、子どもたちが科学にふれ、好きな道に進めることを願って、五十嵐さんは今日もステージで身近な現象や環境問題と結びつく科学の面白さを伝えている。



上：浮体式洋上風力発電広報アンバサダーを務める。中：ショッピングモールで通りがかりの目を止めるショー。下：科学の面白さを伝えるワークショップ。



※ Falling Walls Science Breakthrough of the Year 2022 (何かの壁をサイエンスで壊す人)
<https://www.igarashimiki.com/fallingwalls/>